

目的 演者らは、すでに上半身衣服についてモアレ法を適用して、衣服に加えたゆとり量と衣服空隙量との関連を追究し、2、3の知見を得ている。今回は、これを下半身衣服のパンツに適用して、ゆとりを加えた位置とゆとり量が衣服と人体との間に生ずる空隙に及ぼす影響について検討した。

方法 被検者は年齢27歳の成人女子である。実験には格子投影型モアレカメラFM-80を使用し、被検者の静立時における前、後、側面より撮影した。実験用パンツは、体表シェルを平面に展開したものを基本に作製した。パンツに加えるゆとり量は4種である。NO.1はゆとり量ゼロ。NO.2は、シェルを平面に展開した時に幅方向に生ずる空隙3.5cmをゆとりとしたもの。NO.3はNO.2のゆとりを幅方向に倍加(7cm)したもの。NO.4は丈方向に4cmのゆとりを加えたものである。空隙量は、体表と衣服着用時のモアレ縮字真を重合し、縮の交点における差を求め、同じ差の交点を結んで得られる等変形線図より読み取った。

結果 1)ゆとり量ゼロのNO.1であっても、前面の恥骨結合点から内股、後面の大腿部に8~24mmの空隙が点在する状況がみられた。2)NO.2は、殿部最突点から下方に17~48mmの空隙が認められ、ゆとりを加えた位置にゆとりが保持されていることがわかった。しかし、同位置にゆとりを倍加したNO.3では、殿溝と殿裂の交点を中心とした同心円的な広がりのある空隙分布となり、ゆとりが内股に流れる傾向が認められた。3)丈方向にゆとりを加えた場合、腰圍位~殿溝下部に8~32mmの帯状の空隙がみられた。以上のことは、パンツ作図上のゆとり必要位置および量を定める際の資料に役立てることができると考える。